

## 現代日本学演習 I 「質問紙調査の基礎」

## 第1講 調査課題の設定

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 理論とデータの対応

## 1 課題

配布した調査票を見て、理論仮説と作業 (操作) 仮説との対応を考える。

- 理論仮説とそれを操作化した作業仮説の対応が分かるようにすること
- 作業仮説については、どの項目についてどのような分析結果が出ればよいかをわかるように書くこと
- 教科書のほか、何を調べてもよい。何を調べたかは、末尾に記入する。

## 2 理論とデータ

頭の中で考えたことを理論 (theory) という。実証研究においては、理論的なレベルで検証すべき「仮説」をはっきりさせたいので、それに対応したデータを集めるよう調査方法等を工夫する。

仮説 (hypothesis): 研究によって真偽を決定すべき命題

理論仮説 (theoretical —): 理論的なレベルで考えた仮説

作業仮説 (working —): データによって検証可能な仮説 (操作仮説 operational — ともいう)

理論仮説を作業仮説に翻訳する作業を「操作化」(operationalization) という。

- 理論は直接検証できない
- 検証できるのは作業仮説のみ 「もしその理論が正しいとしたら、 の現象が観察されるはずである」
- 作業仮説が棄却された場合 理論仮説か操作化のどちらかがまちがっている
- 作業仮説が支持された場合、理論仮説や操作化が正しいということが主張できるわけではない
- 科学的研究における「通説」(accepted theory) は、たくさんの研究の結果、その理論仮説を否定することができず、かつ、対立する理論仮説がすべて棄却されていることをもって成立する

理論仮説と作業仮説は必ずしも2つに区分されるものではなく、抽象的なレベルの仮説から具体的なレベルの仮説にいたる連続的・多段階のものと考えたほうがよい。

また、理論仮説と作業仮説は1対1で対応しているものではない。おなじ理論仮説を検証するために複数の作業仮説がありうる。逆に、ひとつの作業仮説に複数の理論仮説が対応することもある。

いずれにせよ、理論仮説 作業仮説の双方を往復する想像力が重要。

## 3 次回予定

来週 (4/30) は休講。その代り、各自の調査課題について面談をおこなう (日時は今日決定)。自分が興味のある分野について、どのようなことを調査したいか、またそのためには誰を対象にどのような質問項目が必要かを考えてくる。